

生活史を読む (from Life History)

—IMMDリハビリテーションシートの実践的利用—

Hiroshi Yamane ; OTR, PhD
Mental acknowledgment function, Brain Function and Rehabilitation
Occupational therapy study, Rehabilitation science course
Human Health Science, Graduate School of Medicine, Kyoto University

国際生活機能分類 ICF



International Classification of Functioning, Disability and Health

- 1980 ICIDH（国際障害分類試案）
- 1981 Ueda model：ICIDH初版の補足モデル
- 1981 Hachiya model：Ueda modelに準じた精神障害構造試案
- 1995 Yamane model：相互性，環境因子，個人因子を加えたサークルモデル
- 1997 ICIDH-2：Beta-1 Draft for Field Trials
- 1998 Ueda revised model：環境因子を加えた修正モデル
- 2000 Yamane new model：IMMD (An Interactional Model of Mental Disability)
- 2001 WHOがICIDH初版をICFに改正

ICFの基本的概念と枠組み



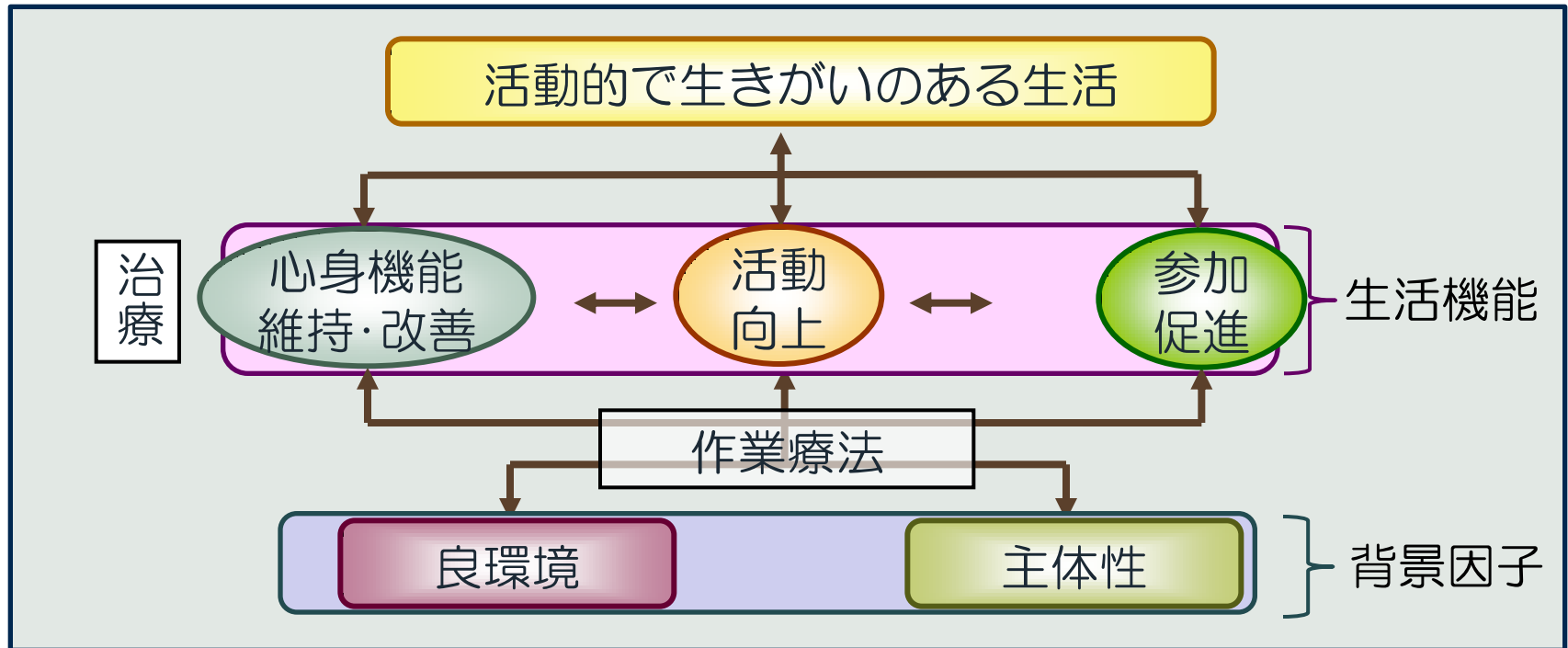
- 人の健康・生活を包括的に捉えるために，視点を障害から生活機能に移した
- 生活機能は心身機能・構造，活動，参加という3次元で表され，それらが相互に影響する
- 生活機能のネガティブな面がICIDHの機能障害，能力障害，社会的不利に相当
- 3次元と環境因子や個人因子との相互作用としてひとの健康状態を捉える

国際生活機能分類



人の健康状態を生活機能と背景因子の相互性で捉える

International Classification of Functioning, Disability and Health ; WHO 2001



medical model 医学モデル
social model 社会モデル



bio-psycho-social model
生物心理社会的モデル

国際生活機能分類の構成要素



3要素：生活機能と障害の構成要素

body functions & structures (心身機能と身体構造)

身体系の生理的・心理的機能
器官・肢体と構成部分

activity

課題または行為の個人による遂行 (活動)

participation

生活・人生場面への個人の参加意志と関与 (参加)

2因子：背景因子の構成要素

Environmental Factors

物的・社会的環境, 人々の態度など (環境因子)

Personal Factors

個人の人生や生活の特別な背景 (個人因子)



ICFとリハビリテーションシート

リハビリテーションシートは、ICFをマザーモデルとした臨床モデル、多職種によるカンファレンス用のカンファレンスシートとご家族や本人との面接にもちいるカウンセリングシートからなる。

- カンファレンスシート
 - カウンセリングシート
- } 基本構成は同じ

カンファレンスシートの概要

年齢

(年表：人生のエピソード)

心身機能・構造

治療内容

評価概略

個人因子

焦点化
リハゴール
長期目標
短期目標

活動

参加

家族構成/関係

環境因子

援助計画

住居経済事情

[カンファレンスシート]

対象者氏名

性別 M・F 診断名

生年月日 / / (歳)

評価年月日 / /

評価者

年齢 西暦 暦表	0					

治療内容

評価概略

心身の機能・構造

活動

個人因子

環境因子

住居・経済事情

参加

家族構成

- 本人の希望
- 焦点化項目
- リハビリテーションゴール
- 長期目標
- 短期目標
- 援助計画

カウンセリングシートの概要

年齢

(年表：人生のエピソード)

心身機能・構造

治療内容

活動

希望
特技や趣味

あなたの目標
・半年～1年
・当面の目標

参加

家族構成/関係

環境因子

援助計画

住居経済事情



利用時期

カンファレンスシート

クライアントの回復レベルにかかわらず，治療・援助の開始初期からもちいることができる

クライアントの状況を把握できているかをチェックするためにも，開始初期からもちいることが望ましい

カウンセリングシート

できる限り早期からもちいたほうがよいが，クライアント自身，もしくはクライアントとの面接により記入するため，ある程度現実感が戻り，言語的なコミュニケーションが可能な時点からもちいるほうが現実的



だれが記入するか？

カンファレンスシート

クライアントの治療・援助にあたる担当者が記入
もしくは関係スタッフ全員でそれぞれの情報を記入

カウンセリングシート

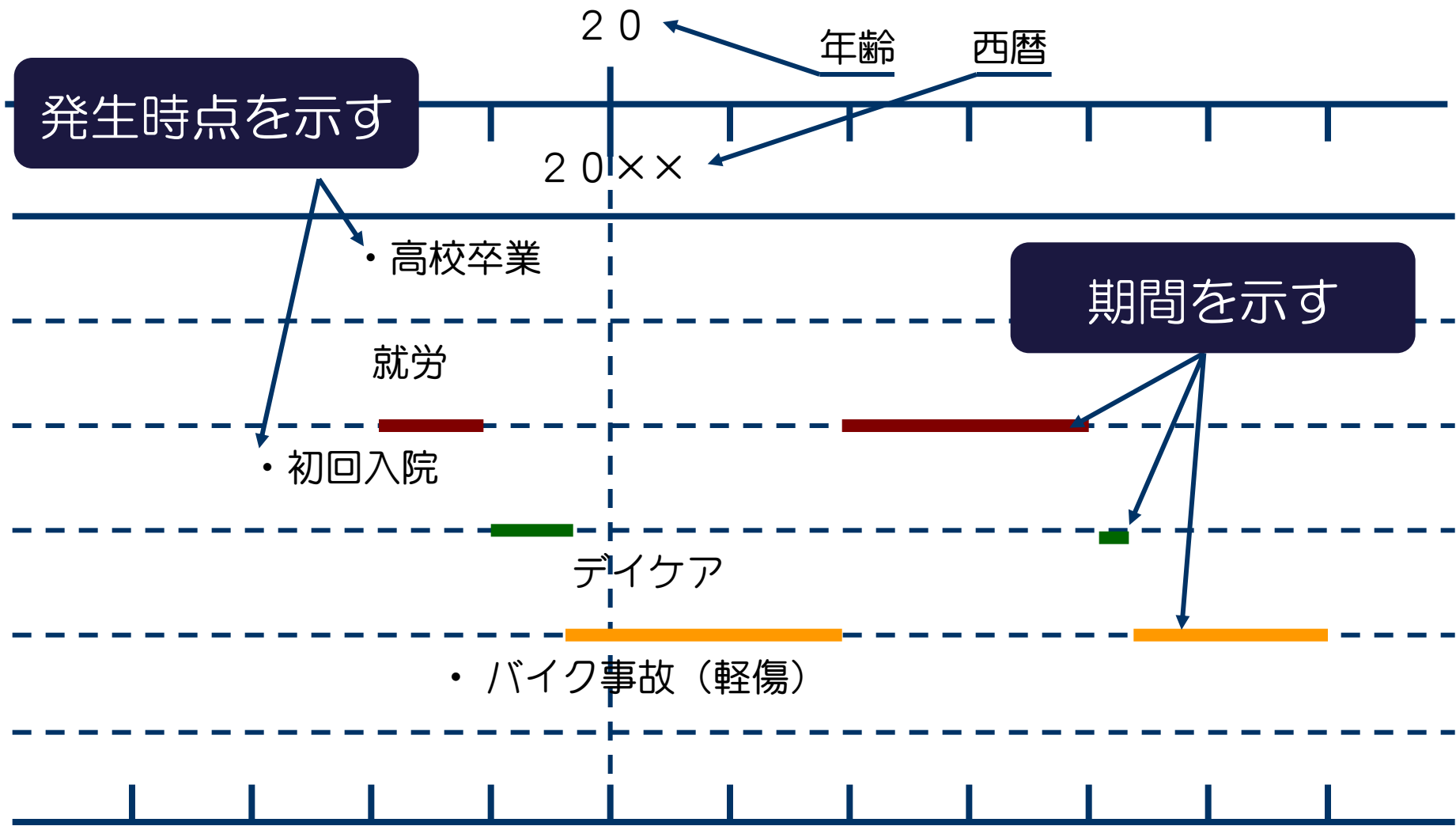
原則として対象者自身もしくは家族が記入
難しい場合は、話を聞き内容を確認しながら担当者が記入

年表の利用

治療・援助者：対象者の生活をストーリーとして読みとる
リハビリテーションゴールの決定
クライアント：生活史の振り返りによる自己認識
客観的な自分の生活の見直し

年表の部分には、ライフサイクルにおける重要なできごと
たとえば、生育歴、学歴、職歴、発病、入院歴、治療歴、
家族内や社会生活における役割や習慣などを記入





ライフサイクルにおける重要なできごと、生育歴、学歴、職歴、発病、入院歴、治療歴、家族内や社会生活における役割や習慣などを記入し生活をストーリーとして読み取る

心身機能・構造：現在の状況と危機時の状況

精神認知機能

- ・ 全般的な精神機能：意識，見当識，知能，性格，活力と欲動，睡眠・・・
- ・ 個別的精神機能：注意，記憶，精神運動，情動，知覚，思考，認知，言語，計算・・・

感覚運動機能

身体の状態

合併症や加齢の影響など現疾患に直接由来しないものも含み，現在の身体機能や精神機能の状態

活動・参加：現在の状況と必要な援助

身辺処理：食事，排泄，睡眠，整容，・・・

生活管理：金銭，時間，物品，安全，健康・・・

家事行為：掃除，洗濯，調理，買い物，育児・・・

コミュニケーション：表現，意思表示，聞く，理解・・・

対人関係：基本的関係，対象による違い，恒常性・・・

作業遂行：認知・課題遂行，身体的側面，心理的側面・・・

移動・社会資源利用：公共機関，交通機関，通信・・・

コミュニティライフ 社会生活 市民生活 職業生活

参加は，日常生活や社会生活に対し何をどのようにしたいか，意志意欲とそれに対する制限や制約

環境因子

人的環境 : 支援者とその内容, 程度, 地域の態度

物理的環境 : 交通機関, 公的機関, 施設, 店舗等の有無と
有無と利用のしやすさ

制度, サービス : 利用できる制度やサービスの内容

住居, 経済事情

個人が生活する環境で生活活動や参加を促進するものと
制限・制約となるものを記入



個人因子

性別，年齢，生育歴，教育歴，職歴，経験，性格
使用言語，習慣，役割，趣味，特技など

個人の生活史や今の生活における特別な背景
心身の機能・身体構造以外のその人の特徴





生活史：Life History

誕生前から誕生、そして現在まで、どのような環境や状況で、どう過ごしてきたかその人が生きてきた航跡

読む

きもちを整え

きもちを抑え

ただ語られることに

耳をかたむけて

聴き

五官を開き

五感に聴き

共に過ごし

目に映るものを

見えるままに観

五感がとらえたものを

そのままに受けとめ

必要なことを集め

問い

こころを無にして

確かめる

聴いて 観て 集め

問い 確かめたことを

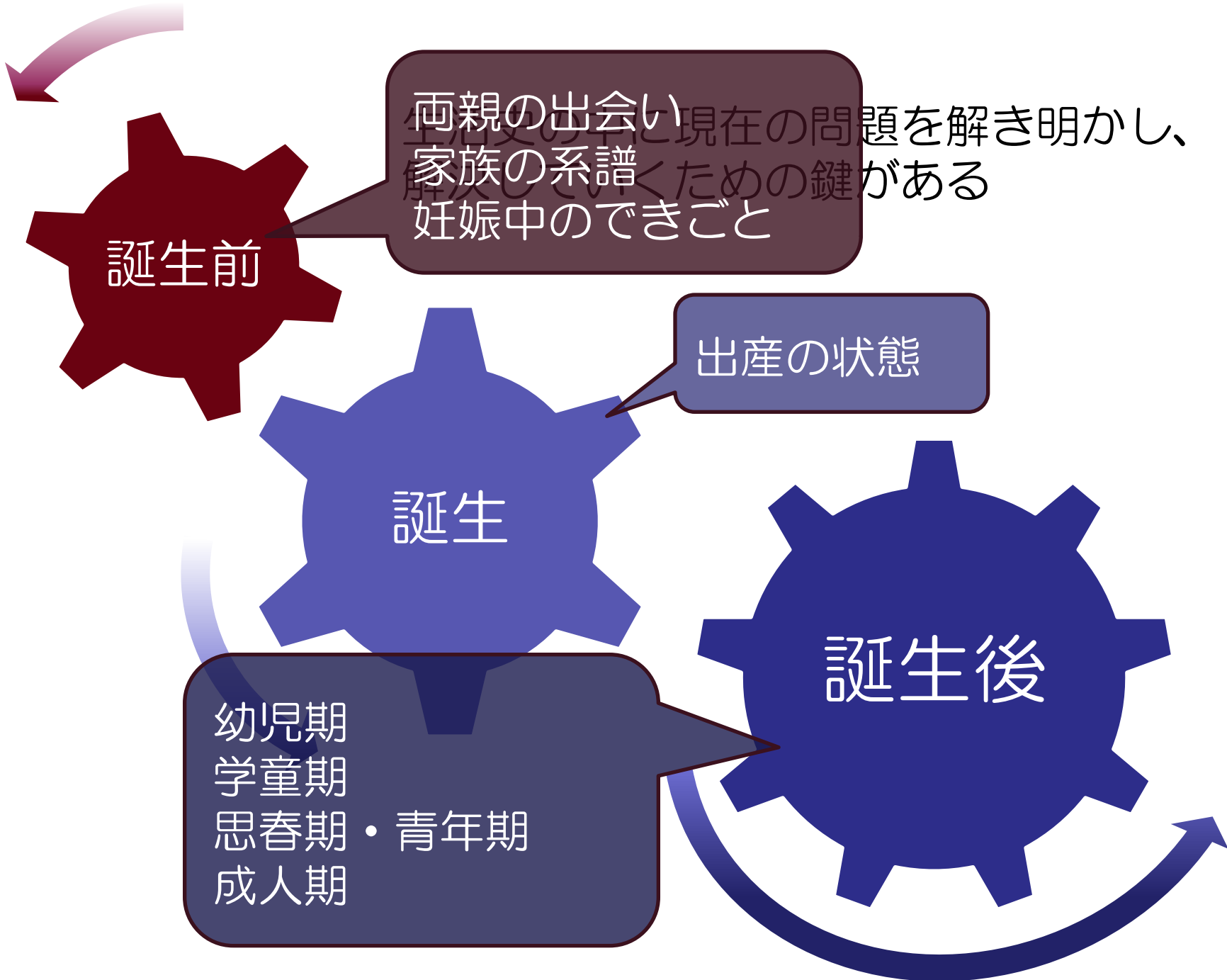
ひとりの人の物語として

読みとくとき

その人の過ぎし日

その人の思いがみえる





エリクソンの発達課題



Erik Erikson (1902—1994)

心理学者(独生まれ米国籍) 両親がデンマーク人, 誕生前に離婚. 1939年米帰化. ヨーロッパを放浪(彼自身のアイデンティティ探しの旅) Anna Freudの教育分析を受け, 米先住民保留地区での文化人類学的研究.

	ポジティブ	獲得	ネガティブ
老年期	統合性	英知	絶望
壮年期	生殖性	世話	停滞
成人期初期	親密性	愛の能力	孤立
青年期	自己同一性	忠義心	役割の拡散
学童期	勤勉性	適確意識	劣等感
幼児期	自主性	目的意識	罪責感
幼児期初期	自律性	意思力	恥・疑惑
乳児期	基本的信頼	希望	基本的不信

生活史の時期と病気や障害

病気は障害は、家族歴に関連があるもの、周産期に関連が深いもの、生育過程の時期と関連が深いもの、何らかの外因が大きく影響するもの、複数の要因によるものがある。

たとえば以下羅列した病気や障害は生活史にどこで何と関係？

脳性麻痺 学習障害(LD) 注意欠陥多動性障害(ADHD) 高機能広汎性発達障害 発達性協調運動障害(DCD) 知的障害 筋ジストロフィー ポリオ 行動障害 選択制緘黙症 チック ひきこもり 分離不安障害 脳血管性障害 四肢の切断 物質依存 うつ病 解離性障害 強迫神経症 心気症 心身症 人格障害 摂食障害 てんかん 統合失調症 パニック障害 PTSD 不安神経症 視覚障害 脊髄損傷 二分脊椎 高次脳機能障害 脳腫瘍 パーキンソン病 構音障害 言語障害 歩行障害 心大血管疾患 筋萎縮性側索硬化症 関節リウマチ ギラン・バレー症候群

* 系統的に分類されたものではありません

頭の体操 1

- 病気や障害の要因となるものに○をつけてみましょう
(必要に応じ複数選択)
 - 発症しやすい時期 (好発期) に○をつけてみましょう
- * 病気や障害名は系統的に整理されたものではありません。

周産期の生活史

誕生前から誕生の時までに、すでに影響しているもの、影響するものがある

家族の既往歴

体質や気質の遺伝に関連

両親の関係

体内環境に関連

妊娠中の状態

発達障害に関連

出産の状態

発達障害に関連



乳幼児期の生活史

自分では何もできない絶対依存の状態から自分の意志で移動できるようになるまで、何が必要か？

母子関係	基本的信頼と不信に関連，母子分離
両親の関係	心理的安定性に関連
養育状態	発育etc. に関係
兄弟姉妹関係	対人関係の基礎に関連
発育状態	発達障害に関連



学童期前期の生活史

教わることで社会的な役割や社会生活のルールを身につけ生活域が広がる。フロイドの潜伏期に相当。

友達との関係

遊び方

遊びの種類

教師との関係

学校・成績

夢・目標

体質や気質の遺伝に関連

一人遊び？多数？

外向的？内向的？

親とは異なる大人との関係

得手不得手

自我理想・同一性との関連



思春期・青年期の生活史

二者関係や権威関係から自立する時期で、心身の変化が大きく、問題多発。精神病理が出現しやすい。

性発達

学校生活

第二反抗期

行動特性

自己同一性や性同一性などのゆれ

統合失調症破瓜型好発時期

不登校

対人恐怖

思春期心性の問題が精神病理に



成人期の生活史

職業生活による自立の期

職業生活
異性関係
結婚・家庭
育児

就労経験の有無，状態
フリーター，ニート，社会的引きこもり
適応障害，育児不安 etc.
精神病の多くはこの時期までに出現



壮年期・老年期の生活史

人生の終わりに向けての喪失体験が始まる時期

事故・事件
トラブル
職業生活
家庭生活
成人病の有無
身体疾患

遺伝や発達に関連がある問題はすでに出てしまっている。



聴く

きもちを整え

きもちを抑え

ただ耳をかたむけ

語られることを待つ

どうにもならない思いを

話すことで離し

聴いてもらえて放れる

聴くことが

どうにもならない思いを

離して放し

こころの荷を

少し軽くする



観る

きもちを整え

きもちを抑え

観の目もち

見る目を弱く

五官を開き

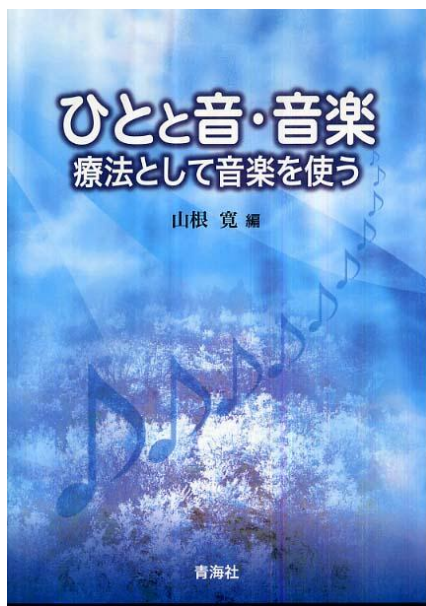
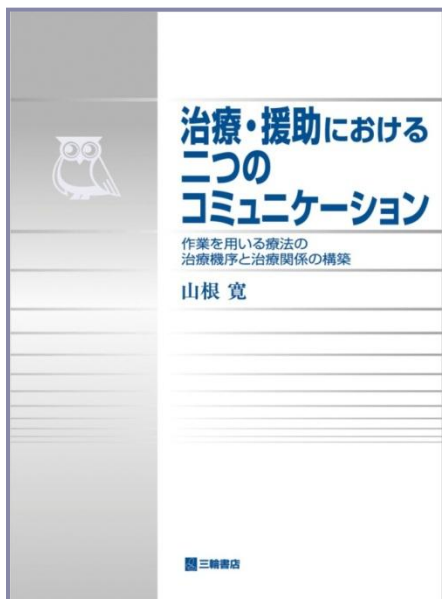
五感に聴き

目に映るものを

見えるままに

観る







Be Good! Do Good!

Do not do what you cannot do.

Do what you can do as it is.

Please enjoy your occupational therapy.